

紹介も、商売の交流も 会員訪問を旺盛に！

会長先頭に会員訪問 6名と対話！

10/2の三役会で、「この秋、各支部で会員訪問に取り組もう!」と話合い、柳澤会長自ら行動しようとの熱い思いで、「10/5に近所の会員を一人で回るので、地図やグッズを用意して欲しい」との連絡があり、豊田事務局と2人で行くことに。15～16時の名古屋北税務署交渉の後、短時間でしたが、効率よく回れ、対話も大いにすすみました。持ち物は、先月、全会員に送った「拡大の訴えと紹介カード」の入った封筒と留守の際の伝言カードと大きな地図に行き先もマークを入れ、効率よく回れるように。幸い在宅の人が多く、7軒で留守は一軒のみ。そこでは、社長が不在のため、封筒と伝言カードを従業員のひとに手渡し。訪問順に、Mさん(塗装業)～Aさん(給湯機器)～Sさん(ビルメンテナンス)



～Iさん(理容)～Kさん(花屋)と回り、インボイスのこと、仕事や会員紹介のお願いと対話もすすみました。Iさん(理容)では、ちょうどお客さんが途切れた時間帯で、「常連のフリーランスのイラストレーターが、インボイスに関心があるので、次回の来店の際に、私から民商に相談に行くよう話しておきます」とうれしい一言!

花屋のKさんには、会長が造園業の名刺を渡したところ「私の花屋と関連した仕事が出来そうですね。」と商売の展望が。会長から自宅近くの花屋さんが、ネット販売にも広げ、売り上げを伸ばしていることを話して、Kさんも関心



持って聞き入っていました。最後に会員の焼鳥屋さんに、夕食も兼ねて訪問。両親、娘の家族三人で経営。絶妙の焼き加減と仕込みの見事さに会長も感動。大將は、自らの民商に入った経験や税務調査で助けられたことを他のお客さんがいるのも気にせず話してくれました。コロナ禍の際は、給付金学習会に家族3人で参加し、「学校の先生よりもわかりやすい説明で、給付金が受けられ助かったわあ～」と語ってくれました。柳澤会長は、「一時間ほどで、6軒の会員と話せて、実に効率よく、様々な話が聞けた。また、焼鳥屋さんも近所なのに、こんな美味しい店があることも知らなかった」「これから、また、バスに乗って、一人で食べに来ますから」と大將と約束。実りある会員訪問でした。

水道の検針員さんが4人で相談に

10月6日(金)午後2時から、名古屋市水道メーターの検針員さんの女性が4人で相談に。そのうちのひとりが、名古屋北部民商の会員と友人で、「インボイスの相談なら、民商で親切に教えてくれるよ」と紹介されたのがきっかけです。検針員さんは100人ほどが、同じ会社に雇用され、半数以下が個人請負で青色申告をしているとのこと。インボイスが始まる1年前に、スマホで業務が効率化されたと報酬が4%削減され、今度は、インボイスを機に1%切り下げると一方的に通告され、インボイスの内容がよくわからないので相談にきたそうです。事務局が、インボイスの仕組み、3年間の緩和措置について説明。「2%削減されたり、自分がインボイス登録するよりは、1%削減はましな方。しかし、なぜ4%下げられたのか、内容を明らかにしてもらったほうがいい」とアドバイス。「インボイス後を見越した便乗値下げだったのでは」など話は尽きません。全員が年収300万前後で、死活問題だと憤りで涙ぐんでいる人も。すでに、名水労(名古屋市水道労働組合)とも相談して団体交渉をおこなっているそうです。このような、便乗値下げがインボイスを契機に行われているとしたら、大問題です。

インボイス制度は廃止させましょう。